おいしさのみなもと

FEED ONE

2023年3月期 第2四半期
決算説明会

2022年11月21日

フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード:2060

エグゼクティブサマリー

FEED ONE

業績動向	2023年3月期 上半期 実績	**飼料の販売数量は増加したものの、原材料高騰や配合飼料価格安定制度積立金の増額等で大幅減益** 飼料の販売数量 ： 179万トン （前年同期比 +2.2%） 経常利益 ： 1億円 （前年同期比 ▲97.4%）
	2023年3月期 予想	**原材料高騰続き、期初予想利益を下方修正** 経常利益 ： 10億円 （前期比 ▲80.3%） ※ 期初予想 40億円
第3次中期経営計画 進捗 Make the leap!2023		**第3次中期経営計画 2年目** 経常利益は未達ながらも、北海道地区の飼料製造設備増設など事業戦略は着実に実行

説明項目

■2023年3月期 上半期実績

■2023年3月期 業績予想

■上半期の取り組み状況とトピックス

2023年3月期 上半期 実績

2023年3月期 上半期 事業環境

FEED ONE

1. 輸入原料における影響

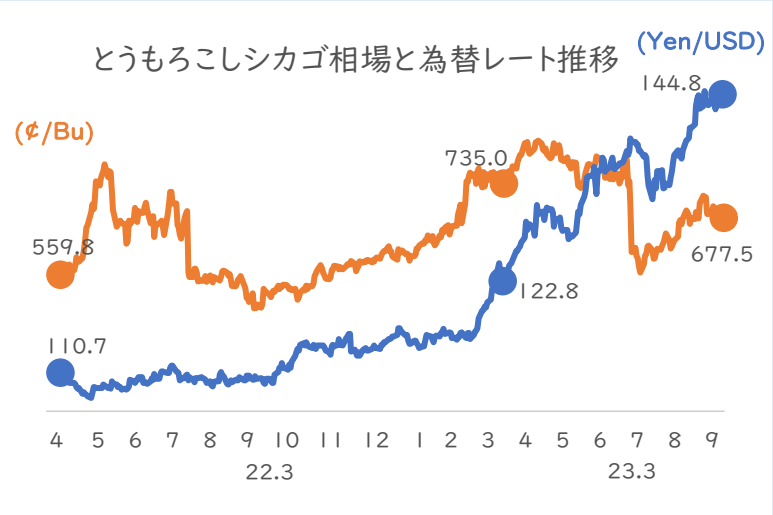
（状況）主原料のとうもろこし輸入価格が高騰し、飼料販売価格も値上げ
原材料高騰により、配合飼料価格安定制度 積立金が増額
※詳細は、販管費詳細にて説明

（影響）売上総利益の減少、販管費の増加→ マイナス影響は 大

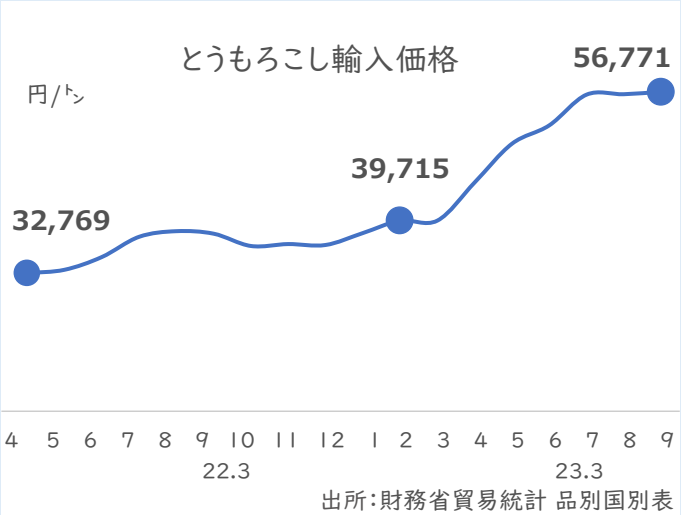
2. 新型コロナ・家畜伝染病における影響

（状況）外食産業が回復傾向で、畜産物全般の消費は前年より好調
豚熱はワクチン接種で鎮静化も、限定的に発生し回復に遅れ
鳥インフルエンザはゆるやかに回復、直近で感染拡大の兆し

（影響）配合飼料流通量は概ね横ばいで推移も、当社販売数量は微増
→ マイナス影響は 小



→主原料 とうもろこしシカゴ相場高騰
→為替レート 3月以降に円安が加速



→主原料 とうもろこし輸入価格（4-9月）は
前年同期比 47.4% 上昇

→畜産用配合飼料流通量は
概ね横ばいで推移

2023年3月期 上半期 決算概要

（百万円,%）

	2022.3期 上半期	2023.3期 上半期		
			増減額	前年同期比
売上高	117,858	144,890	＋27,031	＋22.9
売上原価	105,656	134,386	＋28,729	＋27.2
売上総利益	12,202	10,504	▲1,698	▲13.9
販管費	8,797	10,603	＋1,806	＋20.5
営業利益	3,404	▲99	▲3,504	—
経常利益	3,914	103	▲3,811	▲97.4
親会社株主に帰属する当期純利益	2,829	▲29	▲2,859	—

前年同期比

- 売上高　：飼料事業で畜産飼料の販売価格の上昇により増収
- 売上総利益　：原材料費の増加により大幅減益
- 営業利益・経常利益　：配合飼料価格安定制度の積立金（販管費）増加により減益
- 当期純利益　：固定資産除却損・減損損失等により赤字転落

2023年3月期 上半期 セグメントの状況

（百万円，％）

		2022.3期 上半期	2023.3期 上半期		
				増減額	前年同期比
飼料事業	売上高	97,641	124,241	＋ 26,600	＋ 27.2
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	4,656	1,175	▲ 3,481	▲ 74.8
食品事業	売上高	19,005	19,466	＋ 461	＋ 2.4
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	▲ 164	▲ 201	▲ 36	―
その他	売上高	1,212	1,181	▲ 31	▲ 2.6
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	138	114	▲ 23	▲ 16.9

販売数量	2022.3期 上半期	2023.3期 上半期		
			前年同期比	コメント
畜産飼料	170.7万ﾄﾝ	173.6万ﾄﾝ	＋ 1.7%	採卵鶏用+4%、ブロイラー用+6%、豚用▲2%、牛用＋3%
水産飼料	4.8万ﾄﾝ	5.7万ﾄﾝ	＋ 18.8%	海水魚用+23%、淡水魚用▲2%

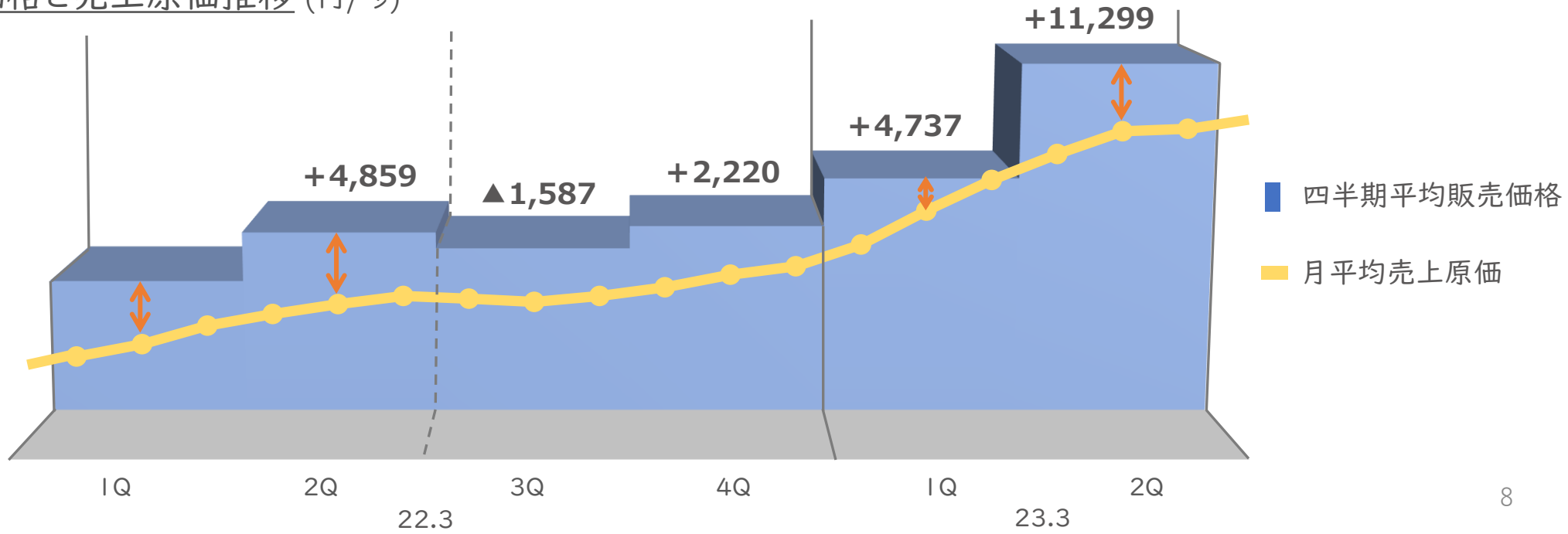
販売価格と売上原価推移① 畜産飼料

FEED ONE

第1四半期は値上げ実施も、売上原価の上昇額が大きく上回り、売上総利益が減少
第2四半期は売上原価の更なる上昇も、価格転嫁が進み、売上総利益が改善

- ▶ 販売価格は原材料相場の変動に準じて、四半期毎に改定を行う
- ▶ 売上原価における原材料費率は8割強、原材料の5割を占める輸入とうもろこし相場が前年同期を大きく上回っている

販売価格と売上原価推移 (円/ﾄﾝ)

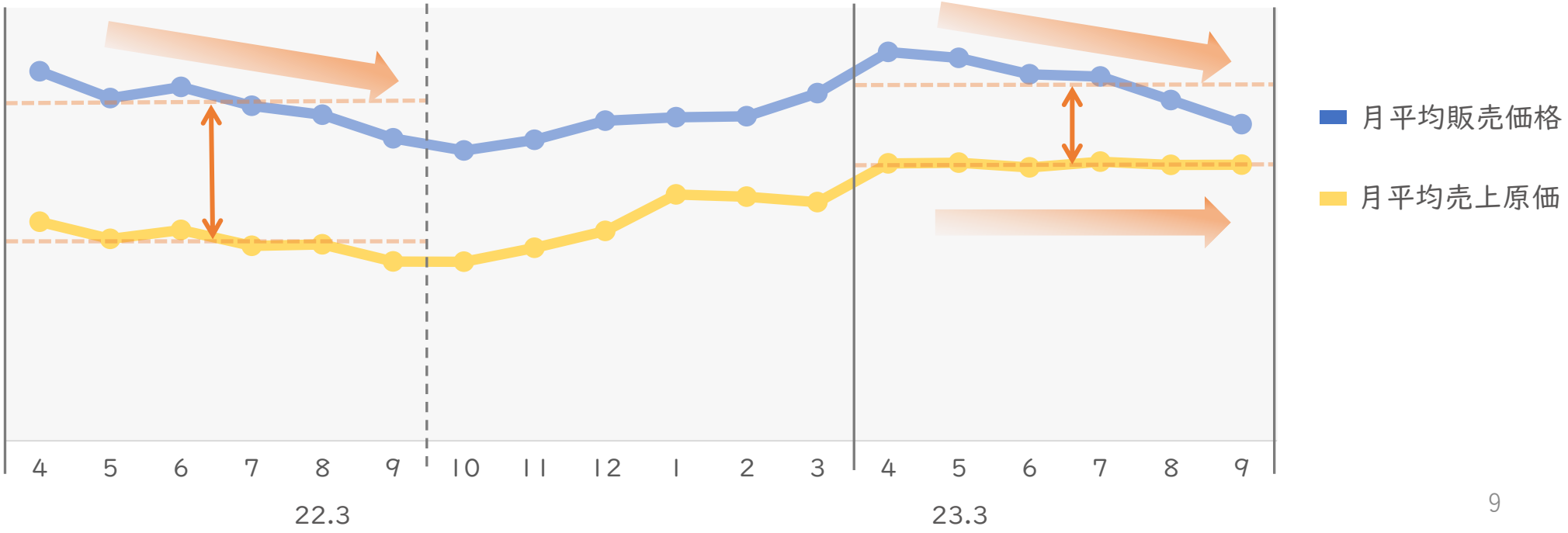


販売価格と売上原価推移② 水産飼料

販売価格は例年通り低下も、売上原価は横ばいで推移し、売上総利益が減少

- ▶ 売上原価における原材料費率は8割強
- ▶ 原材料の4割強を魚粉が占める
- ▶ 定期的な販売価格の改定は無く、原材料相場の大きな変動等を勘案して、改定を行う

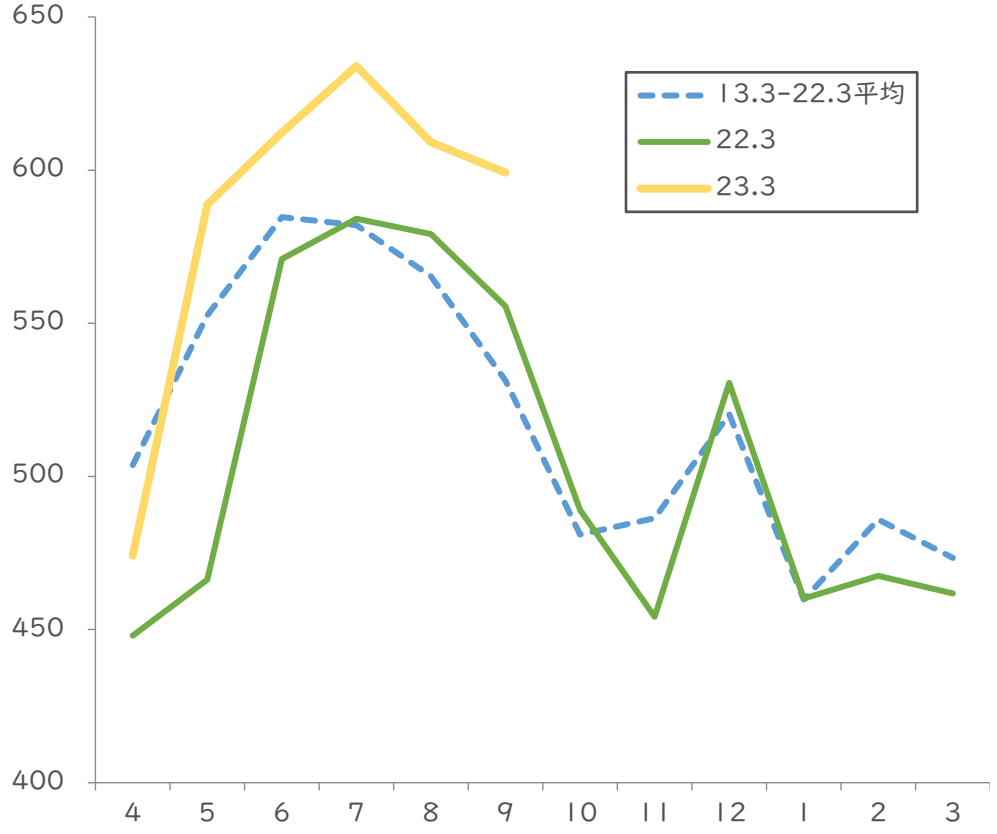
販売価格と売上原価推移 (円/ﾄﾝ)



畜産物相場の状況　食品事業

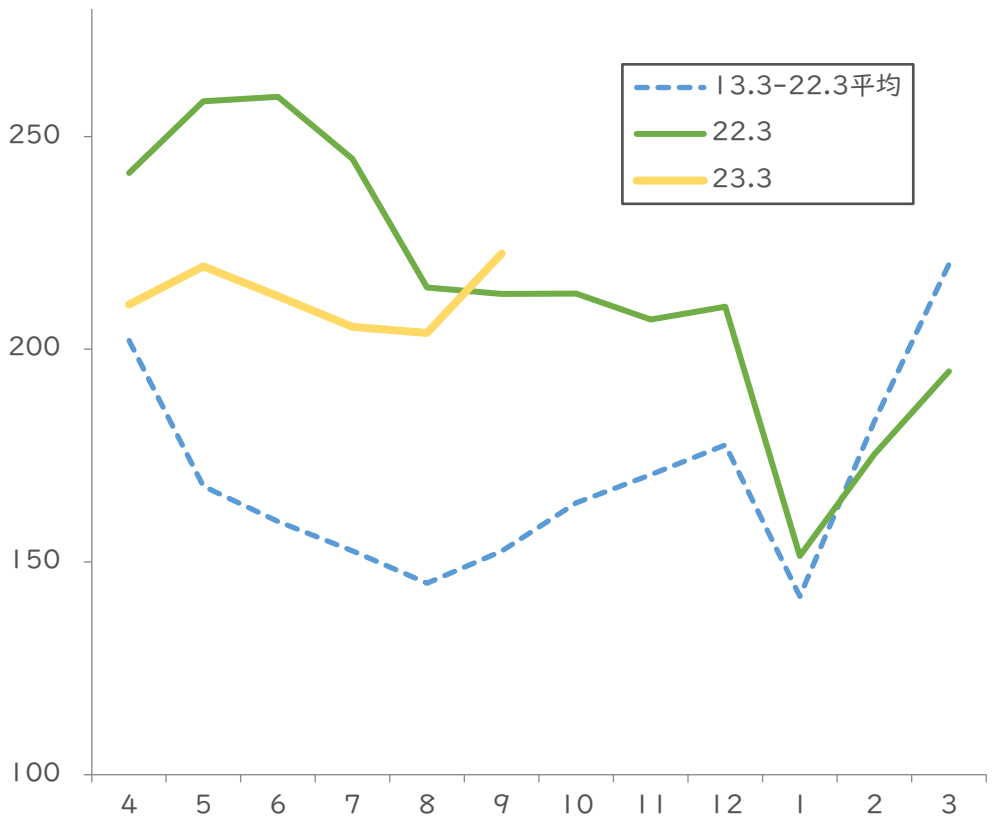
豚枝肉相場は前年を上回り収益が悪化、鶏卵相場は前年を下回り収益改善

豚枝肉卸売価格（3市場・上物）（円/kg・税抜）



（出所：農林水産省「食肉流通統計」）

鶏卵卸売価格（全農：東京M）（円/kg・税抜）



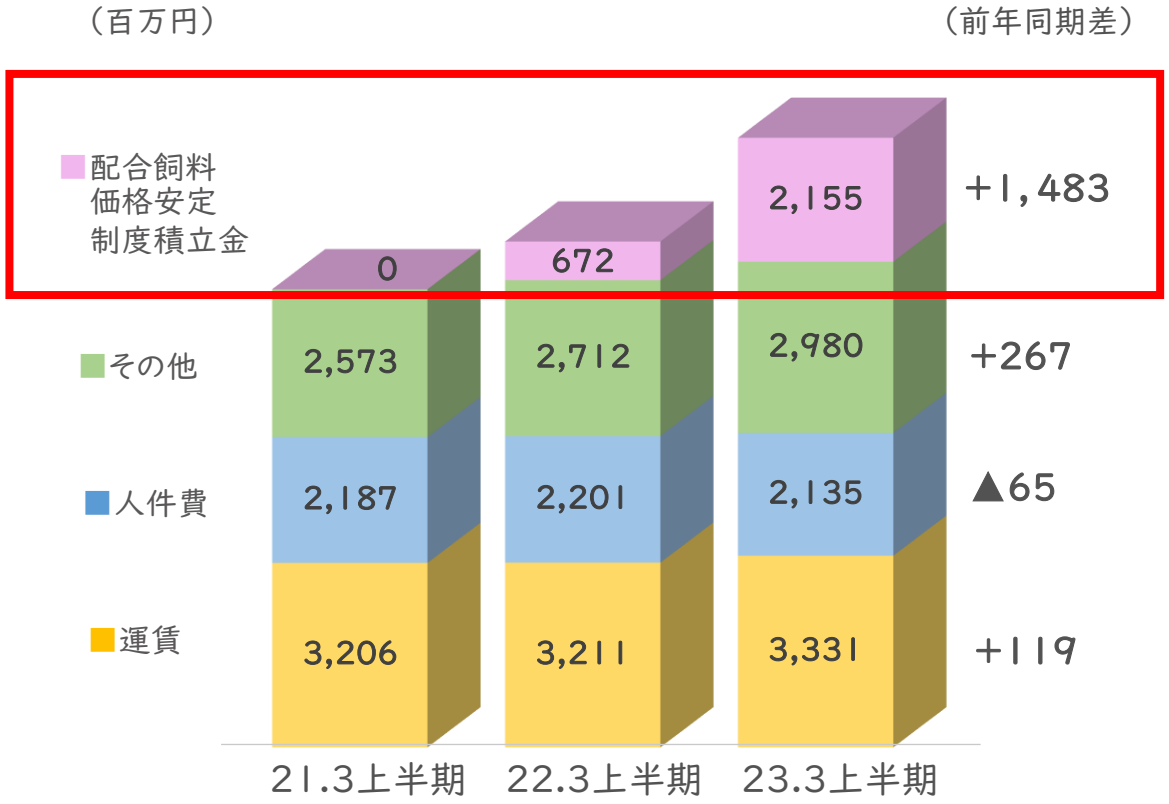
（出所：JA全農たまご㈱調べ）

販管費 と 配合飼料価格安定制度

販管費

▶配合飼料価格安定制度の積立金増額

▶その他の貸倒引当金繰入額、活動費等により増加

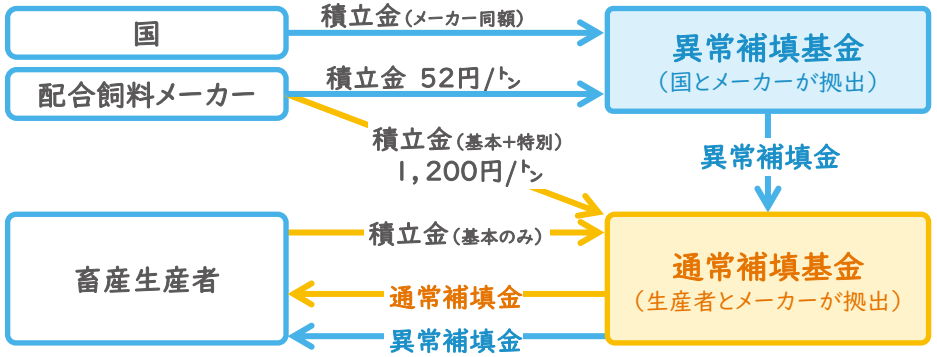


配合飼料価格安定制度

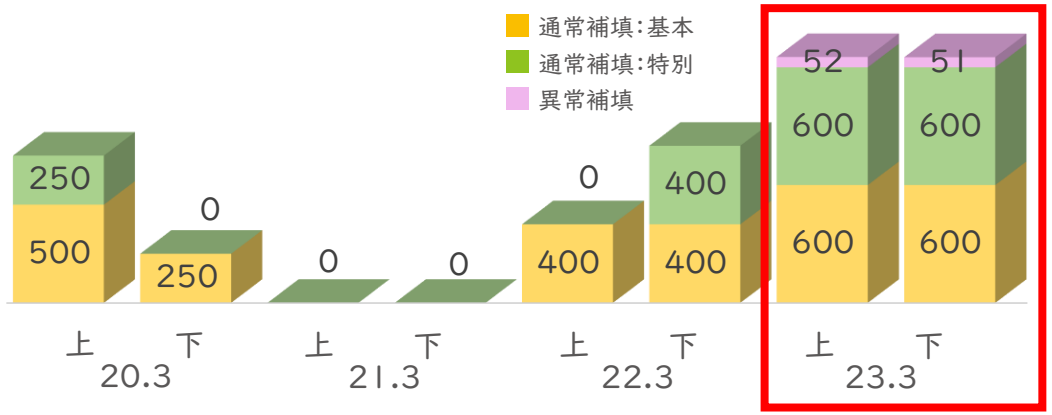
▶飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和する目的

▶補填金発動により22.3期から積立金が再開、23.3期は単価増額、更に異常補填積立金が発生

制度の仕組み（例：2023年3月期上半期）



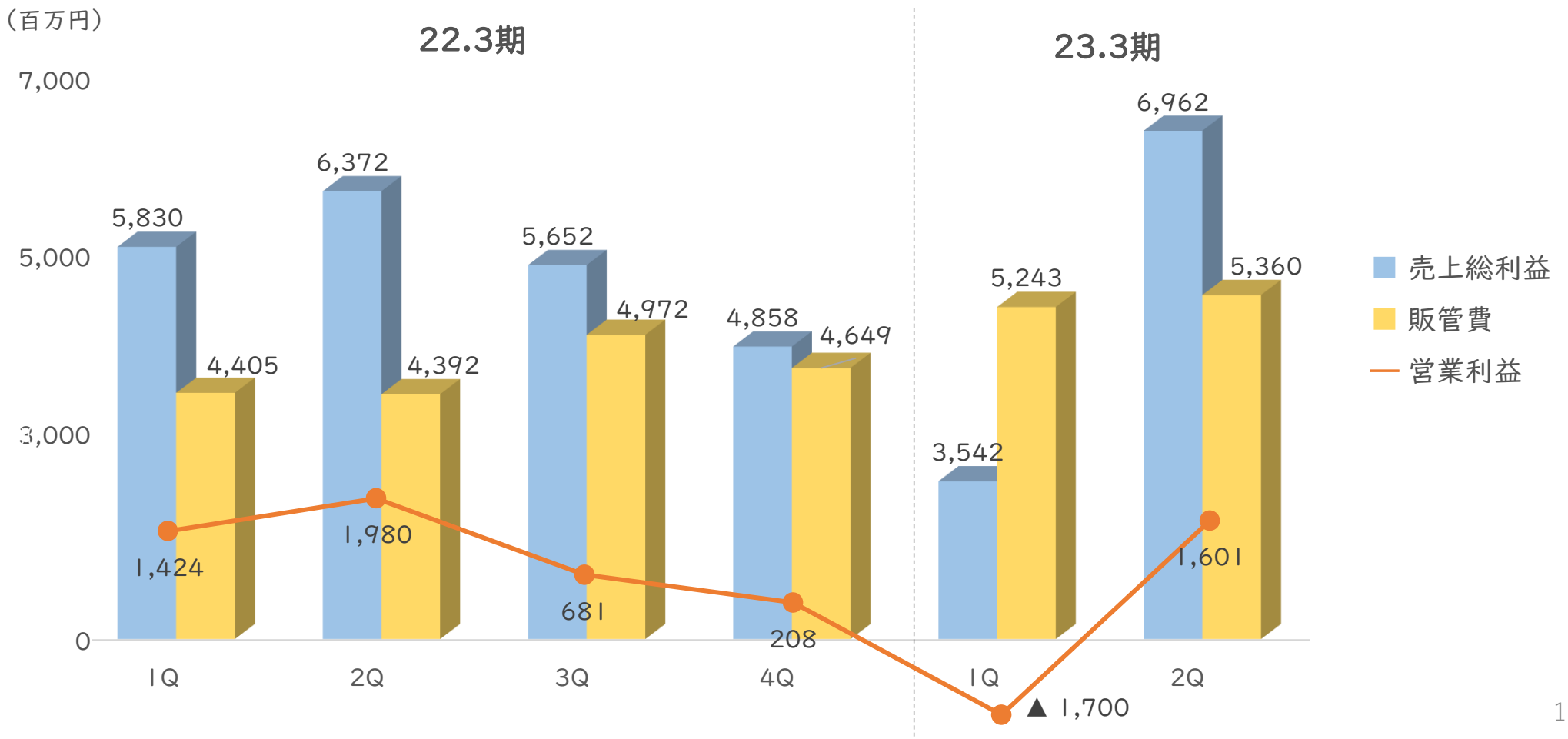
積立金推移（配合飼料メーカー）



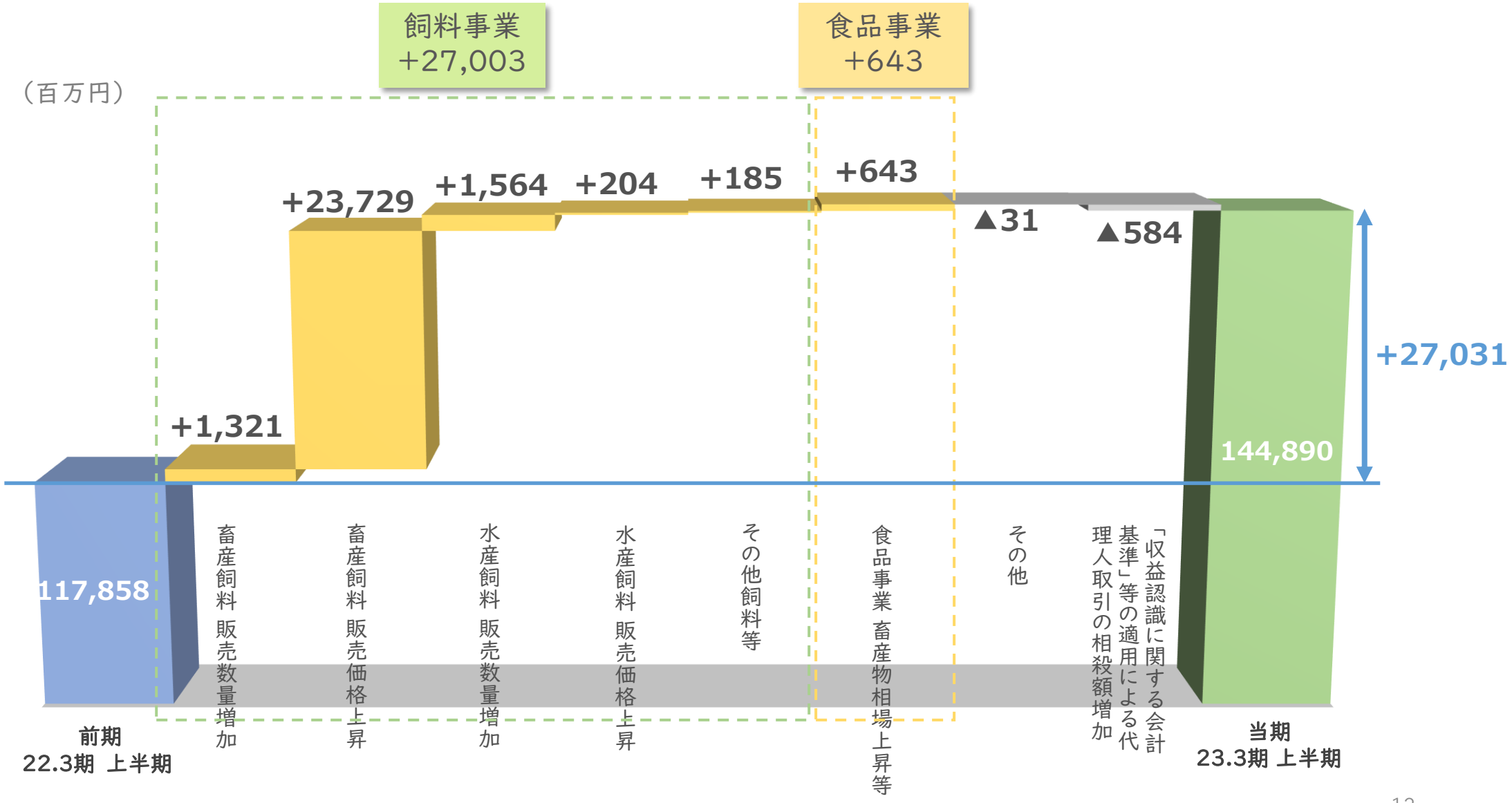
四半期ベース 業績推移

FEED ONE

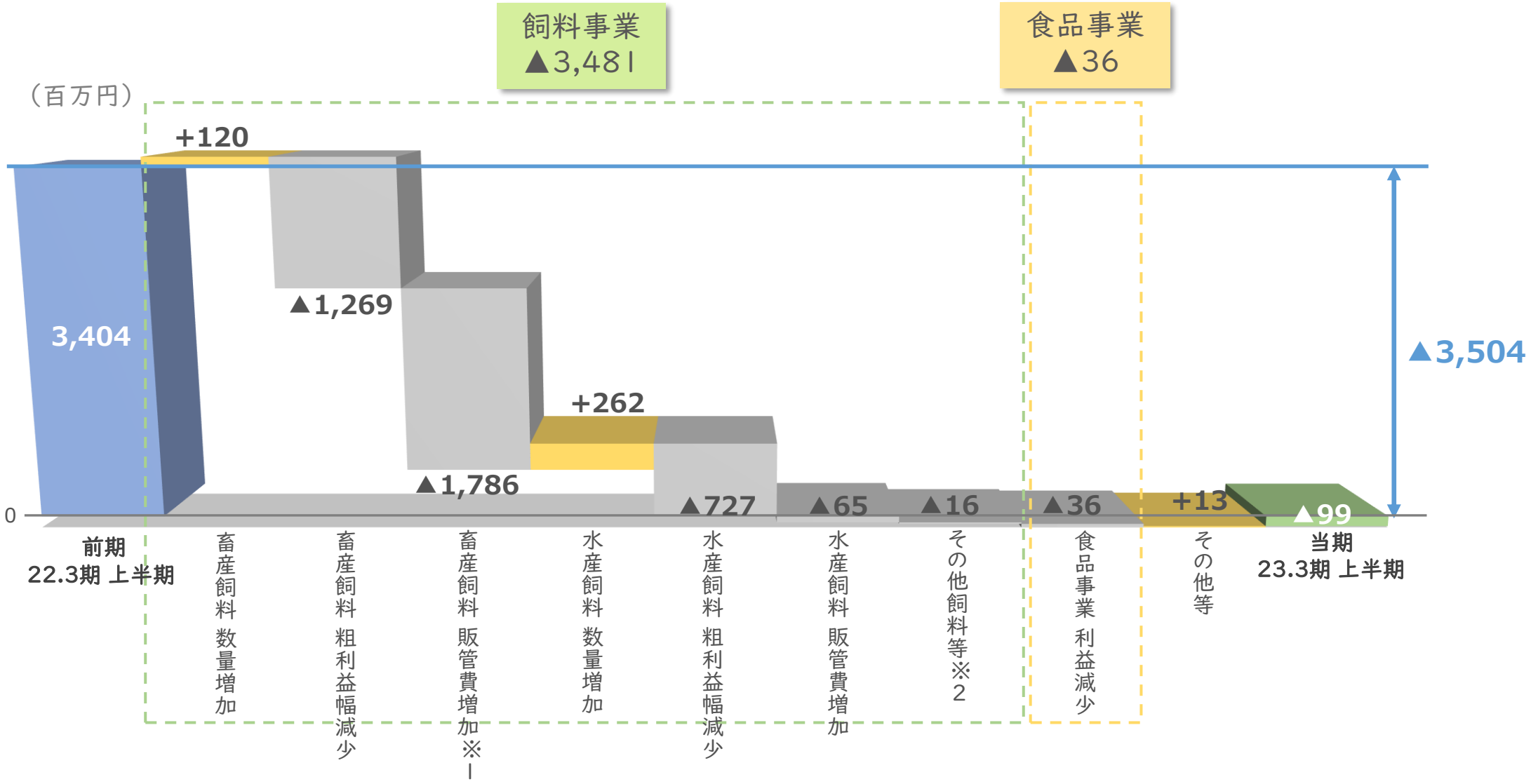
第1四半期は、売上総利益が大幅減少、営業利益がマイナスに
第2四半期は、畜産飼料の価格転嫁が進み、売上総利益が大きく増加、営業利益はプラスに



売上高 増減要因


飼料事業
+27,003
食品事業
+643
（百万円）
+1,321
+23,729
+1,564
+204
+185
+643
▲31
▲584
+27,031
117,858
144,890
畜産飼料 販売数量増加
畜産飼料 販売価格上昇
水産飼料 販売数量増加
水産飼料 販売価格上昇
その他飼料等
食品事業 畜産物相場上昇等
その他
「収益認識に関する会計基準」等の適用による代理人取引の相殺額増加
前期
22.3期 上半期
当期
23.3期 上半期

営業利益 増減要因



※1 配合飼料価格安定制度の積立金増加▲1,483百万円　※2 知多工場一部閉鎖による割増償却▲22百万円

2023年3月期 業績予想

2023年3月期 業績予想

（百万円，%）

	2022.3期	2023.3期		
		予想	前期比	期初予想
売上高	243,202	305,000	＋25.4	301,000
営業利益	4,293	800	▲81.4	4,100
経常利益	5,067	1,000	▲80.3	4,000
親会社株主に帰属する当期純利益	3,659	500	▲86.3	2,500

販売数量	2022.3期	2023.3期			
		予想	前期比	コメント	期初予想
畜産飼料	352.1万ﾄﾝ	358.6万ﾄﾝ	＋1.8%	採卵鶏用＋1%、ブロイラー用＋5%、豚用＋1%、牛用＋1%	358.6万ﾄﾝ
水産飼料	9.3万ﾄﾝ	10.4万ﾄﾝ	＋11.8%	海水魚用＋13%、淡水魚用＋12%	10.4万ﾄﾝ

- 売上高　：飼料事業で畜産飼料の販売価格の上昇により上方修正
- 営業利益　：原材料費の増加により下方修正
- 販売数量　：事業計画通りに進捗中、変更なし

2023年3月期 業績予想の前提と注力課題

1. 下半期の事業環境

●原材料価格

為替レートにおいては円安の継続

円安の進行により原材料相場が高騰

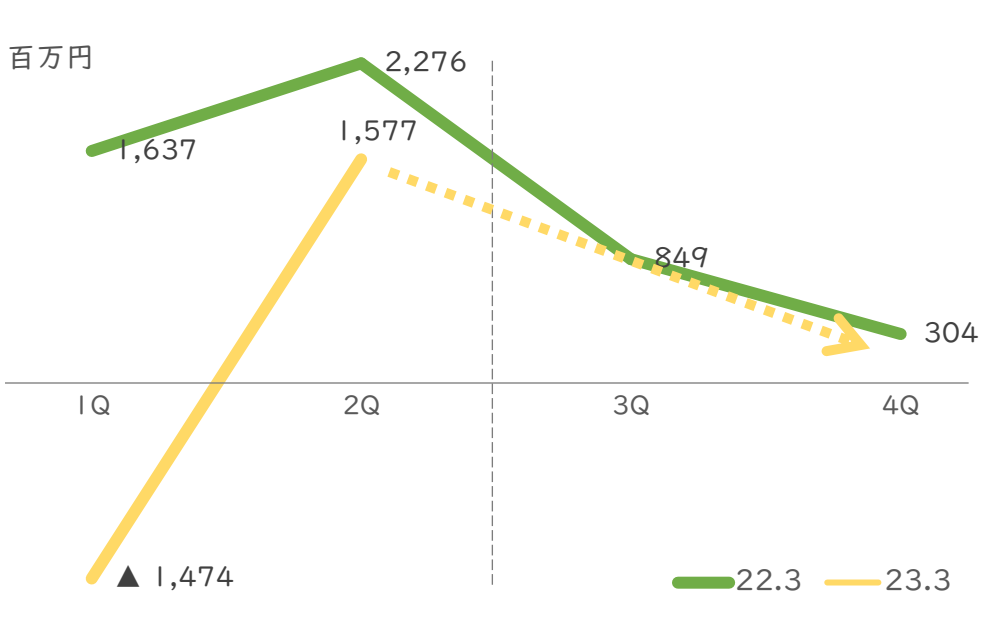
●販売価格

原材料高騰を受け高止まりの中で、価格転嫁は厳しい状況

●配合飼料価格安定制度積立金

期初予想通り1,251円/ﾄﾝ ※前期下半期800円/ﾄﾝ

四半期ベース 経常利益推移



2. 注力課題 持続的な成長に向けた収益力の強化

●販売数量拡大と設備投資

当社の高い技術力により計画通り前期比2.1%増加見込み

販売数量増加に応える製造基盤の強化

●収益力強化

高付加価値製品の拡販

競争力ある原料買い付け

上半期の取り組み状況とトピックス

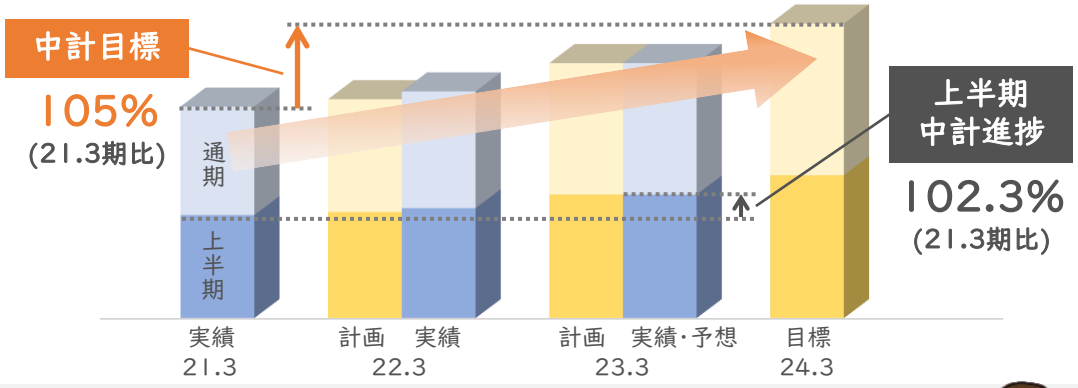
上半期の取り組み① 畜産飼料

FEED ONE

第3次中計

増産体制構築と研究開発を通じて畜産業界の発展に貢献する

畜産飼料_販売数量

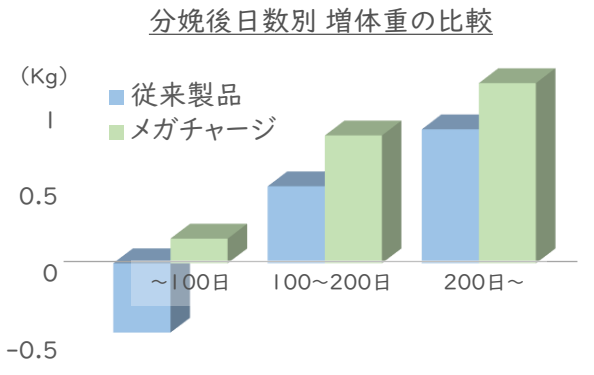


① 顧客ニーズをとらえた高付加価値製品の拡販

乳牛産褥期用飼料「メガチャージ」好評拡販中

- 分娩後の体重回復をサポート
- 搾乳ロボット専用飼料「ファイブギアドロップ」（特許取得）の配合設計技術を応用
- 繁殖機能の早期回復

販売数量 前下半期比192.1%
※2021年度下半期比較



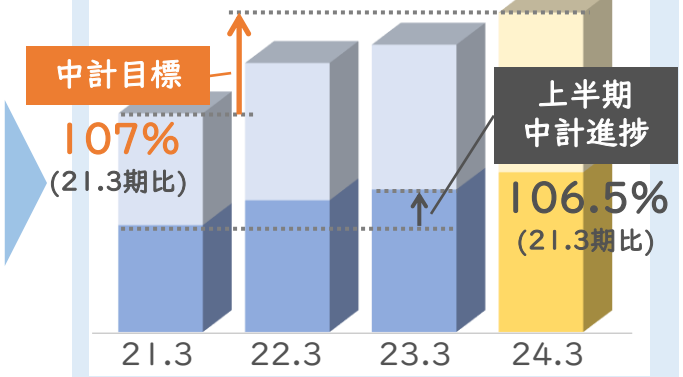
② 牛用飼料の設備増設による製造体制強化

北海道地区 フレークライン増設 完了

2021年8月稼働

2022年5月稼働開始

牛用飼料販売数量 **計画通り**



下半期 取り組み

① 高付加価値製品の拡販

② 北海道地区の拡販

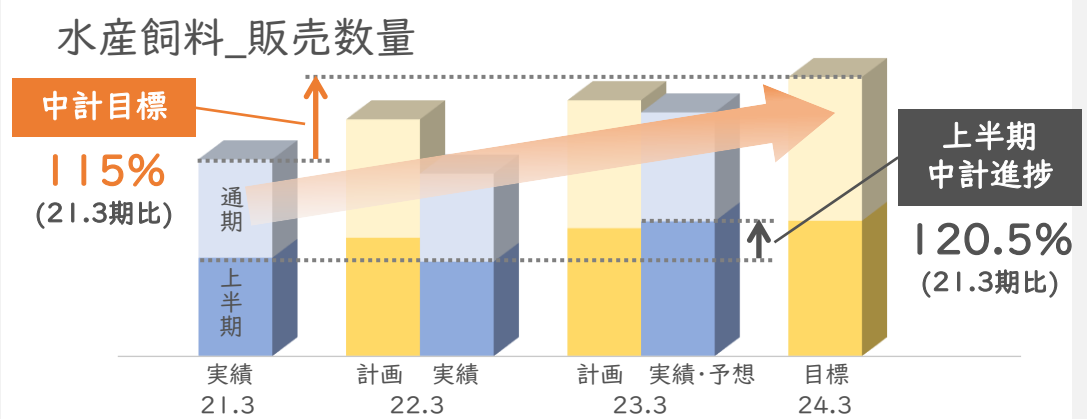
販売数量と収益の拡大へ

上半期の取り組み② 水産飼料

FEED ONE

第3次中計

品質No.1製品とサステナブル飼料を武器に業界トップシェアを目指す



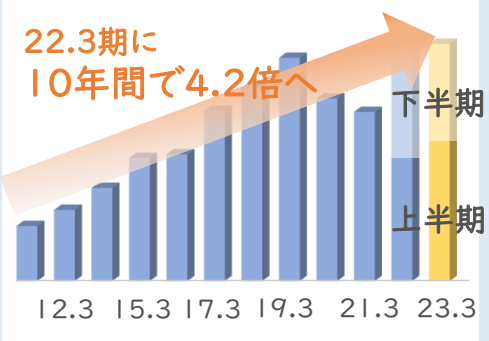
① 顧客ニーズをとらえた高付加価値製品の拡販

「アンブローズ」「モジャコGF」など稚魚用飼料の拡販

・稚魚の急激な成長を支える栄養設計が、水産種苗生産市場で高評価

・モジャコ豊漁により販売数量拡大

販売数量 前年同期比 130.2%



国内を中心に
今後ベトナムほかアジア圏への**輸出拡大**

② 競争力ある原料買い付け ～国産有利原料の活用

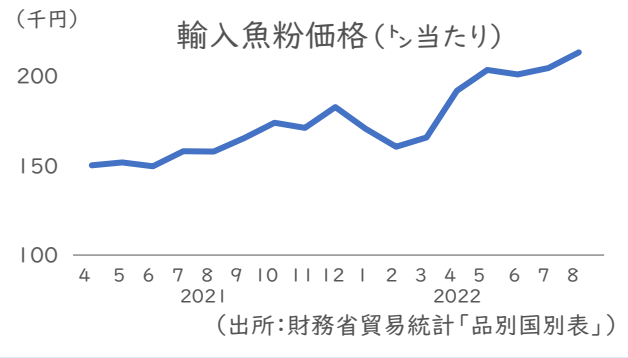
(1) 水産資源の保護

・カタクチイワシ主産地ペルー資源保護のため生産調整

(2) 輸入魚粉価格の高騰

・世界的に需給ひっ迫

・加速する円安

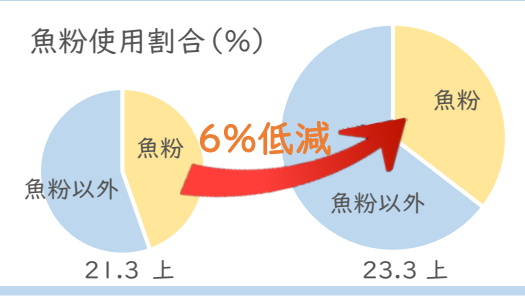


(3) フードマイレージ(食品輸送に伴う環境負荷)への対応

国産原料の活用拡大 と 無魚粉・低魚粉飼料の開発・販売

・チキンミールや魚粉副産物等 **国産有利原料の活用**

・無魚粉・低魚粉飼料への転換による**魚粉使用量の低減**



下半期 取り組み

① 高付加価値製品の拡販
② 国産有利原料の活用等

販売数量拡大と収益改善へ

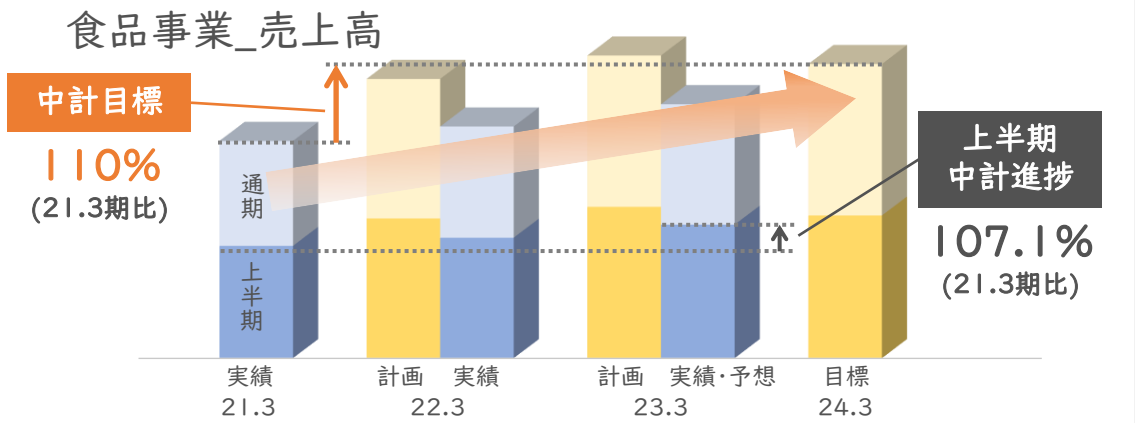
上半期の取り組み③ 食品事業

FEED ONE

第3次中計

コンシューマー商品の充実と人気商品の増産体制を構築する挑戦の3年

食品事業_売上高



※ 収益認識に関する会計基準の適用前

① 人気コンシューマー商品の製造体制 再構築の検討

マジックパール㈱味付ゆでたまご工場建て替えの方針を決定

増産体制の再構築 23年春着工、23年秋の稼働予定

メディア情報

10月25日放映
NHK あさイチで紹介

横浜マラソンとコラボ

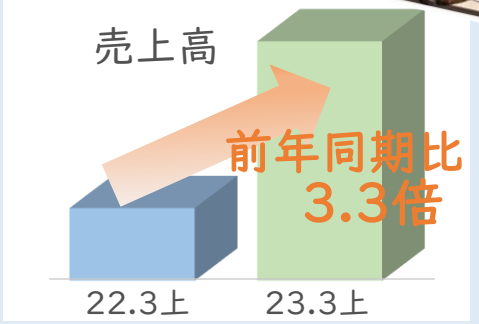
ランナーに
1万個無償配布

② 高付加価値商品の開発・販売

フィード・ワンフーズ㈱
コンシューマー商品の販売状況は順調に進捗

消費者ニーズが高い冷凍新商品や夏場の焼肉需要向け新商品を開発・販売を実施

ロース味噌漬け、ホルモン商品、串加工商品など、20商品を揃え、ラインアップの充実



ﾌｨｰﾄﾞ・ﾜﾝﾌｰｽﾞ 東日本事業部実績

下半期 取り組み

① 消費地に生産拠点を構えるメリットを生かし、ニーズにあった商品を短いリードタイムで供給

② 冬場の鍋物需要に向け、売れ筋商品の拡販・新商品の開発に注力!!

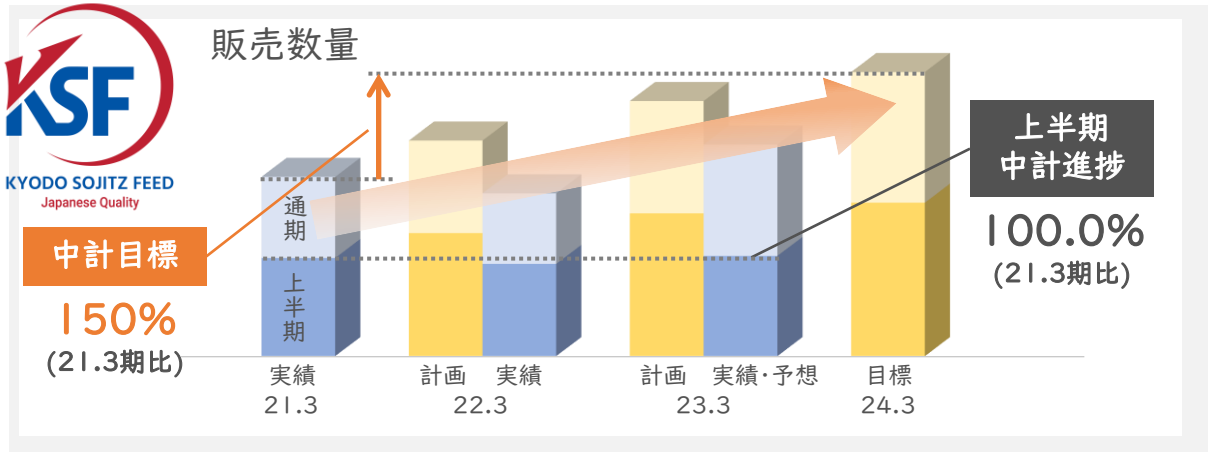
豚肉相場に左右されにくいコンシューマー商品の販売基盤構築

上半期の取り組み④ 海外事業

FEED ONE

第3次中計　**海外事業として管理コストを含めた事業収益の黒字化へ**

① ベトナム:KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED



・前年新型コロナにより数量減少も、コロナ前の水準へ

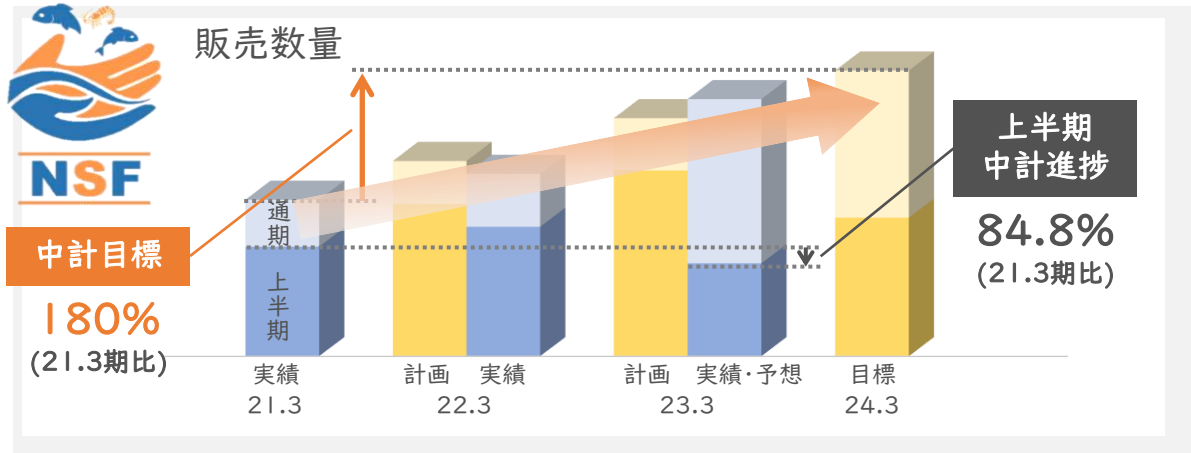
・原料高も高利益製品拡販に注力し収益力強化

・**ベトナム初となるフレーク設備が完成**、出荷開始

下半期 取り組み

・フレーク設備を活用した牛用飼料拡販
・牛用 代用乳製造設備の投資
・大手酪農企業との協業による販売地域拡大

② インド:NIPPAI SHALIMAR FEEDS PRIVATE LIMITED



・飼料価格高騰に伴う飼料需要減退により販売数量が減少

・原料高に対応するため価格有利原料の積極的な調達により収益率改善 ➡ **黒字転換**へ

下半期 取り組み

・エビ用飼料の品質向上により、拡販施策を展開
・製造管理強化に伴う、製品歩留まりの改善
・顧客ネットワークの強化による需要予測の精緻化

上半期の取り組み⑤ ESG経営の推進と基盤強化

FEED ONE

第3次中計

FEED ONE SDGs ACTION

①働き方改革の推進
②DX・新事業への取り組み
③ガバナンス強化
④ESG/SDGs体制の構築

● 気候変動への対応

飼料業界初

2022年4月19日 TCFD提言に賛同表明
2022年6月20日 TCFDレポート開示

気候変動がもたらすリスクと機会が企業経営に与える財務的影響を評価し、「ガバナンス・戦略・リスク管理・指標と目標」を開示

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

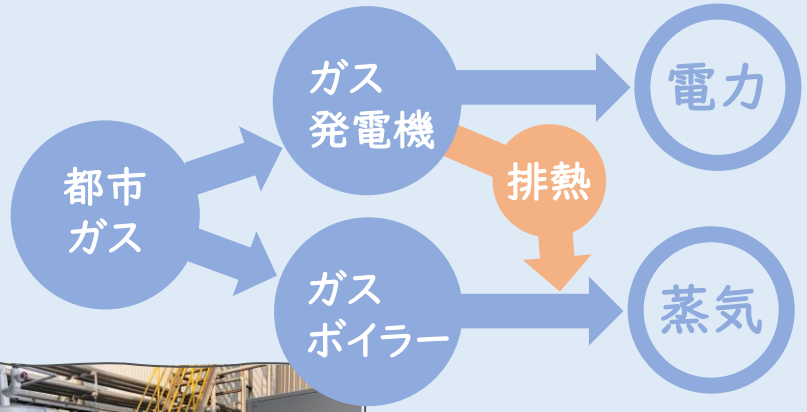
三井物産_サービスプラットフォーム「e-dash」の運用

エネルギー・GHG排出量を可視化管理、GHG削減に取り組む

● 脱炭素の取り組み

北九州畜産・北九州水産工場 2工場に
ガスコージェネレーション設備2022年11月導入

発電する際に発生する排熱の一部を有効活用し、蒸気ボイラーの燃焼率向上を図る



→ エネルギー使用量・コスト削減
→ 年間約200トン-CO_2削減見込み

上半期の取り組み⑤ ESG経営の推進と基盤強化

FEED ONE

飼料業界初

●サステナビリティ・リンク・ローンの締結

2022年8月29日、環境・社会面における持続可能な経済活動の促進と事業の安定性や財務の健全性向上を図ることを目的として契約を締結

- ☑ 借入金額：100億円
- ☑ 借入期間：3年（うち50億円）、5年（うち50億円）
- ☑ 金融機関：横浜銀行、農林中央金庫
  三井住友銀行、三井住友信託銀行

設定したCO_2排出量削減目標を達成することで得られる金利優遇相当額は、当社グループのESG/SDGsに資する活動に活用予定

【目標】CO_2排出量

① 2023年度：2020年度比15%削減
② 2025年度：2020年度比25%削減

→アレンジャーの横浜銀行片岡頭取（左）とフィード・ワン社長 庄司（右）

● 農林水産省・北海道 牛乳消費拡大プロジェクト参加

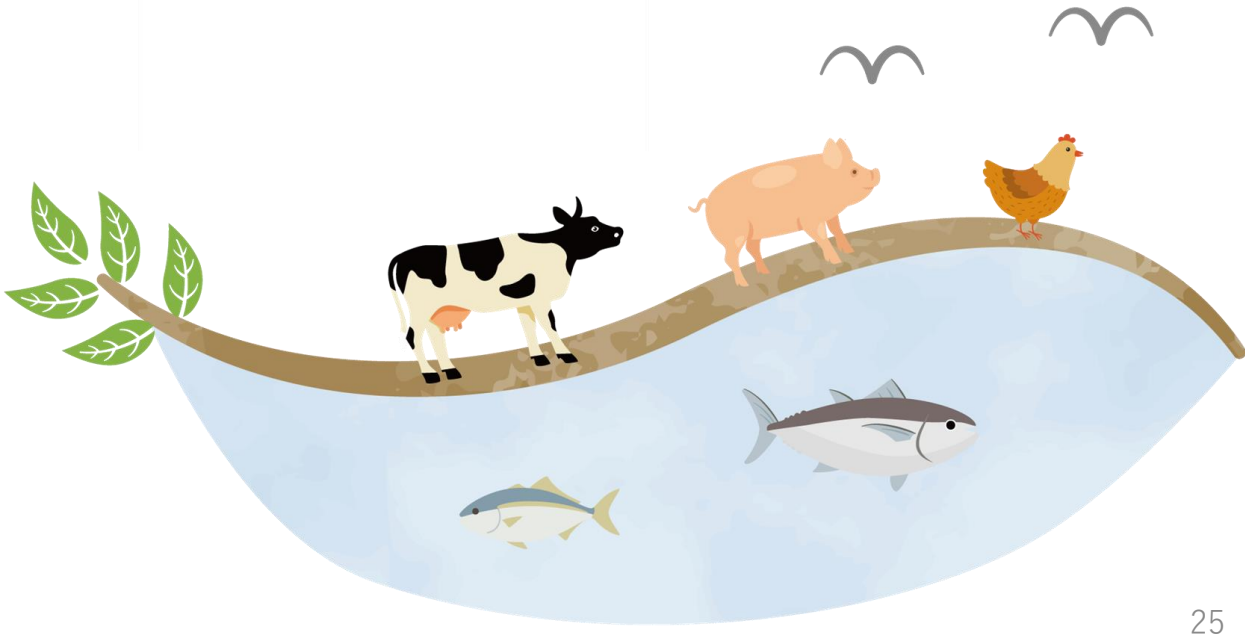
コロナ禍や学校がお休み期間の生乳需要減少時に国や各自治体で開催。当社もプロジェクトを支援！

〈取り組み〉
- ・小売店における牛乳販促の協賛
- ・常温保存可能牛乳の食支援
- ・飲もう！牛乳 北海道産食品拡大プロジェクトへの協賛

●横浜マラソンへの協賛とボランティア活動

ボランティア活動を通じ、地域共生の実現と地域社会の発展に貢献

さいごに　新社長として



おいしさのみなもと

FEED ONE

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、

その情報の正確性を保証するものではありません。

また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛（ir@feed-one.co.jp）にご連絡ください。